

音楽 I

指導目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。「知識及び技能」(1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身につけるようにする。「思考力、判断力、表現力等」(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。「学びに向かう力、人間性等」(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。☒
------	---

教材	教科書：「音楽 I Tutti プラス」 学習書「音楽 I 改定版学習書」 レポート、学習ノート
----	--

レポート	全6回
面接指導	必要時間数：2時間 (※面接指導減免6割の学習者は必要6時間)
放送	全42回 (ラジオ WEB視聴可)
試験	中間到達度チェック、年度末試験は実施しない。スクーリング内で、実技試験(歌唱テスト)に代わる創作課題を実施する。

単位	2単位
評価	<p>【①知識・技能】 レポート各回の学習内容の成果に基づき評価する。</p> <p>【②思考・判断・表現】 レポート各回の学習内容の成果と創作課題の内容に基づき評価する。</p> <p>【③主体的に学習に取り組む態度】 レポート各回の学習内容・成果・放送視聴課題、提出状況(期限)、スクーリング出席状況(必要時間の充足)をもとに評価する。</p> <p>以上の3観点の総合評価により、年度末に評定【5、4、3、2、1】を決定する。</p>

月	添削指導 (レポート)		面接指導 (スクーリング)		放送 (NHK高校講座)		オンライン指導	中間到達度チェック 年度末試験
	回 (提出期限)	指導単元・項目	週	指導内容・学習活動等	回	内容	内容	内容・範囲
4			1	① 「音楽 I」学習の概説 学習上の注意事項や学習手順を理解する。 教科書p.34~35の「音楽を形づくっている要素」を通して、要素それぞれのはたらきに注目し、理解を深めることができる。	1	・音楽の世界へようこそ	オンラインサポート動画「音楽 I オリエンテーション」	
			2	2	2	・音楽を特徴づける要素を見つけよう		
4			3	② ■第1回レポート「歌うための発声器官と発声の仕組みを理解する」 教科書p.12~13「声という大切な楽器」から「声が生まれる場所」と「発声のしくみ」を理解することができる。	3	・日本の歌		
			4	4	4	・リコーダーの魅力		
5			1	③ ■第1回レポート「音名、音符の長さを理解する」 教科書p.146「大譜表と音名」「音符と休符」を通して、楽譜の見方と音名について理解することができる。教科書p.18「春が来た」等の曲をイタリア音名で歌うことができる。	5	・楽譜と演奏のフシギな関係		
	第1回レポート (5月25日)	●音名、音符の長さを理解する。 ●歌うための発声器官と発声の仕組みを理解する ●音楽などの作品を楽しむためのルールについて考える。	2	2	6	・楽典		
5			3	④ ■「音の高さを表す5本の線」 教科書p.17、p.21を通して音符と五線譜について理解を深め、「春が来た」等のメロディーを実際に五線紙に書き写すことができる。	7	・日本の歌曲		
			4	4	8	・バロック時代の音楽の魅力		
			1	⑤ ■第2回レポート「この道」 この道の作曲者、作詞者、作曲された背景について理解を深めることができる。歌詞の内容と、楽譜に書かれている記号について理解し、作品にふさわしい歌い方、表現について考えることができる。	9	・わらべ歌・民謡		
			2	2	10	・日本の芸能と民謡		

6			<p>⑥</p> <p>■第2回レポート「この道」について理解を深める これまでに学んだ「発声のしくみ」とを生かし、歌詞の内容や表現を考察しながら、歌うことができる。</p> <p>■「日本の民謡と芸能」 教科書 p.46～47を参照し、各地に伝わる民謡、芸能について知り、自分が住む地域に伝わる音楽に関心を持つ。</p>	<p>11 ・東アジア、東南アジアの音楽</p> <p>12 ・三線/三味線に親しもう</p> <p>13 ・南アジア、西アジアの音楽</p>		
7	第2回レポート (7月10日)	<ul style="list-style-type: none"> ●日本歌曲「この道」について理解を深める ●日本の民謡について理解を深める ●バロック時代の特徴について理解を深める 	<p>⑦</p> <p>■第2回レポート「バロック時代の特徴について理解を深める」 教科書p.110と放送を通して、バロック時代の背景、代表的な作曲家、音楽の特徴について理解ができる。協奏曲やオペラなど、代表的な作品を鑑賞し、バロック時代の特徴に注目しながら聴くことができる。</p>	<p>14 ・ずっしり重い音の構築物</p> <p>15 ・いろいろな形式</p>	オンラインサポート動画「前半のまとめ」	
7			<p>⑧</p> <p>■第3回レポート「古典派の音楽について理解を深める」 教科書p.111と放送を通して、古典派の時代背景、代表的な作曲家、音楽の特徴について理解ができる。古典派の作品を鑑賞し、古典派の特徴に注目しながら聴くことができる。</p> <p>■第3回レポート「ギターについて理解を深める」 ギターの種類と音色、各部の名称について理解する。ギターのさまざまな奏法に注目しながら作品を鑑賞することができる。</p>	<p>16 ・クラシックギターを弾こう</p> <p>17 ・モーツァルトのオペラ「魔笛」</p>		
8			<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>			
9	第3回レポート (9月10日)	<ul style="list-style-type: none"> ●古典派の音楽について理解を深める ●オペラについて理解を深める。 ●ギターについて理解を深める 	<p>⑨</p> <p>■第3回レポート「オペラについて理解を深める」 教科書p.111、p.128、p.130を通してオペラについて理解を深めることができる。モーツァルト作曲「魔笛」を、オペラの特徴に注目しながら鑑賞できる。「魔笛」以外の作品についても関心を持つ。</p> <p>■「音名、音符の復習」「音程と音階について」 後期に行う「創作課題」に向けて、前期に学んだイタリア音名、楽譜の見方を確認、復習することができる。</p>	<p>18 ・オセアニアの音楽</p> <p>19 ・ヨーロッパの音楽</p>		
9			<p>⑩</p> <p>■「いろいろな形式」 古典派のソナタ形式をはじめ、さまざまな形式を知り、曲の構成について調べる。</p> <p>■「身の回りの音を取り込む」 第22回放送「身の回りの音を取り込む」を通して、日本音楽の表現に関心を持ち、音と音楽のつながりを考えることができる。</p>	<p>20 ・ドイツ歌曲の魅力</p> <p>21 ・ロマン派の音楽</p> <p>22 ・身の回りの音を取り込む</p>		

10	第4回 (10/30)	<ul style="list-style-type: none"> ●ロマン派の音楽について理解する ●ドイツ歌曲について理解する ●楽譜に付けられた記号、指示を知る。 	<p>⑪</p> <p>■第4回レポート「ロマン派の音楽について理解する」</p> <p>教科書p.112と放送を通して、ロマン派の時代背景、代表的な作曲家、音楽の特徴について理解ができる。小品、管弦楽など代表的な作品を鑑賞し、ロマン派の特徴に注目しながら聴くことができる。</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>■第4回レポート「ドイツ歌曲について知る」</p> <p>教科書p.28～30、p.112、p.116、放送からドイツ歌曲の魅力、ドイツ語の発音を理解し、ピアノ伴奏にも注目しながら鑑賞する。楽譜に記されている記号を理解し、シューベルト作曲「野ばら」をドイツ語で歌うことができる。</p>	23	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア民謡や歌曲、フランスの歌 ・日本の劇音楽 		
			<p>⑫</p> <p>■「イタリア民謡、フランスの歌」</p> <p>イタリア語、フランス語の響きに注目しながら鑑賞することができる。楽譜に記載された記号を通し、表現を考えながら、イタリア語の歌を歌うことができる。</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>■「オーケストラで使われる楽器」</p> <p>教科書p.122～123を通して、オーケストラで使われる楽器に注目しながら、ラヴェル作曲「ボレロ」を鑑賞することができる。</p>	24	25	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパから世界へ ・ラヴェルのバレエ音楽「ボレロ」 	
11			<p>11月～12月の間に創作課題（旧歌唱テスト）を実施する。詳細は下記、計画表欄外を参照。</p> <p>⑬</p> <p>■第5回レポート「拍子、リズムについて理解する。」</p> <p>教科書p.43を通して、拍子、拍子記号が理解できる。それぞれの拍子を理解し、拍子を感じながら歌うことができる。</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>■第5回レポート「コードネームの仕組みを知る」①</p> <p>教科書p.61、p.148を参照し、和音、コードネームについて理解し、簡単なメロディーに和音、またはコードネームをつけ、伴奏を考える。</p>	27	28	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードアンサンブル ・日本の楽器と合奏スタイル 	
			<p>⑭</p> <p>■第5回レポート「コードネームの仕組みを知る」②</p> <p>教科書p.146、p.148を参照し、音と音の隔たりである「音程」と和音（コード）の構成について理解する。</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>■「コードの響きや流れをよく聴いて、それに合う旋律をつくろう。」</p> <p>教科書p.61を参考に、和音（コード）を構成している音と音をつないで旋律を作る。コードと一緒に演奏し、調和のとれた響きになっているか確かめる。</p>	29	30	<ul style="list-style-type: none"> ・篠笛を吹こう ・中世・ルネサンスの音楽 ・現代音楽の世界 	
12	第5回 (12/10)	<ul style="list-style-type: none"> ●拍子、リズムについて理解する ●和音の仕組みを知る ●コードネームの仕組みを知る 	<p>⑮</p> <p>■「ヴォイス・アンサンブル」に取り組む</p> <p>「Oh happy day」を鑑賞し、ゴスペルについて理解を深める。教科書p.67「Happy birthday to you」の和音の変化を意識し、アンサンブルで歌うことができる。</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>■第6回レポート「作曲に取り組む」</p> <p>教科書p.21「言葉を生かして旋律をつくろう」放送「曲を作って楽譜を書いてみよう」を参考に、創作をすることができる。</p>	32	33	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式や式典の音楽 ・ヴォイス・アンサンブル 	

		⑩ ■第6回レポート「日本音楽史について理解を深める」 教科書p.96～99「日本音楽史」、p.100～101「古の音楽に思いをはせよう」教科書p.88～94「和楽器のしらべ」から日本の音楽について理解を深め、鑑賞することができる。	34	・アフリカの音楽	オンラインサポート動画「後半のまとめ」	
1	第6回 (1/5)	●日本音楽史について理解を深める ●学習のまとめ ●作曲に取り組む	⑪ ■学習のまとめ「創作」 教科書p.67「ヴォイス・アンサンブル」、教科書p.68「テーブル・ミュージックを楽しもう」、p.61「循環コードで音楽をつくろう」等これまで学習したことを活用し、アンサンブルや創作を行うことができる。	35 36	・南北アメリカの音楽 ・さまざまなポピュラー音楽	
			⑫ ■「もっと音楽を楽しむために」 これまでの学習のまとめ、学習を通してこれからの音楽と自分との関わり方について考えることができる。	37 38	・英語の歌を歌う ・近代日本の歌の始まり	
2			1			
			2	39 40	・言葉を生かして旋律を作ろう ・作った曲を楽譜に書いてみよう	
			3			
			4	41 42	・循環コードで音楽を作ろう ・もっと音楽を楽しむために	
3			1			
			2	43	・エピソード	
			3			
			4			

【創作課題実施の流れ】

【協力校 音楽 I 担当の先生にお願いする作業】

- ①9月～10月にかけて本校から、紙媒体の履修者名簿、課題、返送セット(表紙、封筒)が送付されます。届いたら人数分が揃っているか確認をお願いします。
- ②転入生も実施の対象になります。名簿に記載されていない転入生がいたら、お手数ですが、名簿に手書きで追加をお願いします。

【実施時】

創作課題を行うスクーリング時に課題を配布する前に以下のことをご一読ください。

- 取り組み時間は30分です。
- 教科書を見ながらの取り組みを可とします。
- 楽譜を書く都合上、鉛筆かシャープペンを使用し、ボールペンは使用しないように指示をお願いします。
- 音符の記入に苦労している生徒がいれば、教科書と見比べながら記入するよう助言をお願いします。
- 課題はA・B2種用意する予定です。B課題に取り組む生徒がいれば、教室内にあるキーボード、ピアノを使用させてください。
- どうしても30分で仕上がらず途中であっても、作成した分を加点して評価に加えるため、持ち帰らずに提出させてください。
- 試験ではないので、用紙が不足した場合、用紙をコピーして使用して構いません。

30分経過後は回収し、出席生徒と名簿を照合して、名簿の生徒名にチェックを入れてください。

- まだ名簿に載っていない転入生がいれば、名簿に直接生徒番号、氏名を書き込み、枚数のカウントに含めてください。
- 名簿に記入するのは、出席生徒のチェックのみで評価は記入しない。
- 終了後は速やかに返信用封筒に課題と名簿を入れて東京本校に返送する。

【実施時の生徒への説明】

■今回のスクーリングでは、創作課題を実施します。試験ではありません。教科書を見ながら取り組んで構いません。分からないところは、担当の先生に質問も可能です。終了後は持ち帰らずに提出してください。

■取り組み時間は30分です。AまたはB、どちらか一つ選んで取り組んでください。

■取り組んだ分は、年度末の成績認定に反映します。

■30分で仕上がらなくても、取り組んだ分を評価するので、持ち帰らずに提出してください。

■課題に取り組む際は、鉛筆または、シャープペンを使用してください。消しゴムを使用してもかまいません。ボールペンは使用しないでください。

■生徒番号と氏名を忘れずに記入してください。

■メロディーの創作を選んだ場合、教室にあるピアノ、キーボードの使用を許可します。使用したい場合は、担当の先生に申し出てください。

【実施中】

■生徒から質問があった場合→テストではないので、答えていただいて構いません。困っている生徒がいたら、積極的な声かけをお願いします。また生徒同士が教え合うことも許可します。

■メロディーの創作を選んだ生徒にアドバイスをしたいか→必要に応じてアドバイスをさせていただいて構いません。教室にあるキーボード、ピアノの使用も許可してください。

【生徒が早く終わってしまった場合】

「早く終わってしまった生徒用プリント」を用意します。そのプリントを提出する必要はありません。解答も同封するので、終了後に解答をお渡しください。創作課題A、Bの提出がメインとなります。指導時間中に、プリントの内容についての質問があった場合は、終了後に渡す解答と教科書をよく確認するようにお伝えください。

【実施後】

①全員の創作課題を回収してください

②名簿を参照し、提出した生徒の氏名にチェックを入れ、枚数を確認してください。

③表紙に実施日と枚数を記入し、クリップでとめ、添付の封筒に入れて本校に送付をお願いします。

※評価は東京本校で記入するので、記入をしないでください。

【当日の緊急連絡先】

042-573-8111 (NHK学園高等学校)

070-2476-3358 (音楽科 小尾 業務用携帯)